

ろんぶ^んぽん

2018年11月29日放送：ギャンブルと運

論文①「Inactivating Anterior Insular Cortex Reduces Risk Taking」

邦訳：島皮質前部の不活性化によるリスク選択行動の減少

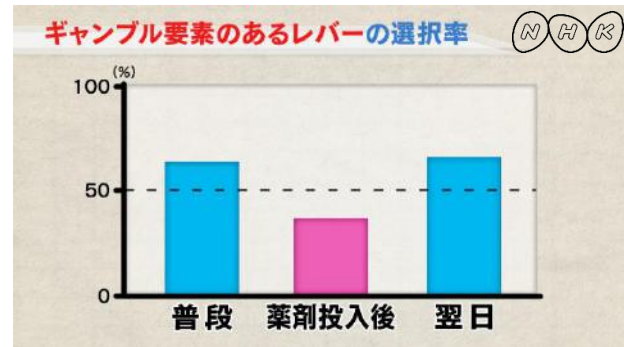
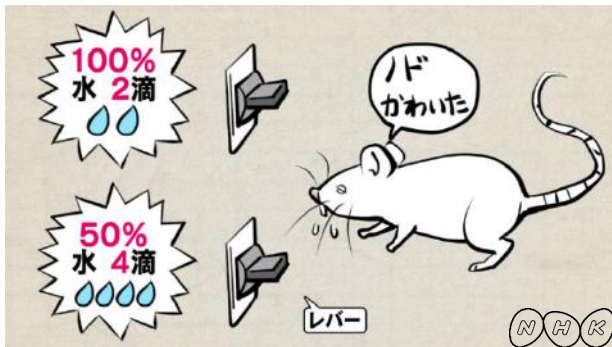
著者：石井宏憲、大原慎也、Pilippe N. Tobler、筒井健一郎、飯島敏夫

The Journal of Neuroscience November 7, 2012



右：論文著者の飯島敏夫 東北大学名誉教授

左：論文プレゼンターのロッチ・コカドケンタロウさん



画像左：飯島教授は論文の中で、喉の乾いたラットは「100%の確率で水が2滴出るレバー」と「50%の確率で水が4滴出るレバー」とでは、ギャンブル要素のある後者を選ぶことが多いという現象を明らかにし、その原因が脳の「島皮質」という部分にあることを突き止めた。

画像右：そして「島皮質」の働きを薬で抑えることで、ラットのギャンブル行動を減少させることにも成功。この研究は、ギャンブル依存症の治療への応用なども期待されている。

【いまの日本人の冒険度は！？】

放送時間の関係で割愛したデータをここにご紹介。

スタジオで田村淳さんと萩原聖人さんにした同じ質問を、番組では独自に20代から60代の各世代・男女50人ずつ計500人にアンケートした。

●質問

お金に困っているとき、次のような条件で1年間仕事をするならどちらですか？

- ① 毎月確実に20万円もらえる仕事
- ② 2分の1の確率で月に40万円もらえる仕事

どれくらいの人が、②のギャンブル性が高い方を選んだと思いますか？ 結果はこちら。

2分の1の確率で月に40万円もらえる仕事を選んだ人の割合
(番組調べ500人にアンケート)

	男性	女性
20代	8%	6%
30代	12%	0%
40代	10%	2%
50代	8%	6%
60代	6%	2%

(N) (H) (K)

どの世代も1割に届くか届かないか…。

みなさん、ラットとは違いとても堅実な傾向にあるようだ。

飯島教授によると、人間の意思決定は「年齢」や「性別」だけでなく「職業や収入」「既婚か未婚か」「子供の有無」、はては「その日の気分」などにも左右されるため、ラットよりもはるかに複雑なんだとか。

女性の方が低い傾向にあることについては、飯島教授の最新の研究でも「オスのラットの方がリスクのある選択をしがち」だということが分かってきているそう。さらに、「メスのラットの方が決断までの時間が短い」という結果も出たそうだ。

論文② 『運』という物語と主体との関係

著者：土井孝典（駿河台大学 助教）

学習院大学大学院臨床心理学研究 第7号 2011年



右：論文著者であり心理カウンセラーでもある土井孝典助教

	運と行動は関係ある	運と行動は関係ない
ポジティブ	いい子にしていればいいことがある	運は運努力はする
ネガティブ	悪い子にしていたから悪いことが起きた	運の前には努力はムダ

画像左：土井助教による、人それぞれの「運との向き合い方」。「運に対してネガティブかポジティブか」「運と自分の行動は関係あるかどうか」を基準に4つのタイプに分類。土井助教は論文の中で、ギャングル漫画『賭博黙示録カイジ』をモデルにこの分類の解説を試みている。

画像右：土井助教によると、カイジは最初「世の中いいこともあれば悪いこともあるから努力はムダ」と考えがちなC型だったが、徐々に「運は運、勝つためには努力も必要」と考えるD型へと変化しているとのこと。こうした運との向き合い方の変化は、心に悩みを持った青年期の方と接する上でも、とても参考になるんだそう。